

前期  
27. 8. 20

平成二十八年 度

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)

試験問題表紙

解答上の注意

1. 表紙一枚、問題用紙五枚、解答用紙五枚があるかどうかを確認すること。
2. 国語科教育 (問題一) ・国語学 (問題二) ・近代文学 (問題三) ・古典文学 (問題四) の四分野のうちから一分野を選択し解答すること。
3. 「日本語教育」分野志望者は、必ず「問題二」を選択すること。
4. 選択した分野を、解答用紙 (その一) にある選択受験分野表の選択分野欄に○印を入れて示すこと。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。  
選択しない分野の解答用紙には、用紙全面に「×」を大きく表示すること。
6. すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験終了後は解答用紙のみを回収するので、解答用紙以外はすべて持ち帰ること。

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）

試験問題（国語科教育） 問題用紙全五枚（その一）

問題一 次の文章は、読書教育について述べたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係により掲載いたしません

問一 傍線部Aに「読書教育の目標は、つまるところ自分の力で読むことを楽しむことのできる読者（読み手）を育成するところにあります。すなわち、人を「自立した読者」にすることが読書教育のめざすことなのです」とありますが、「自立した読者」とは、どのような読書生活を行う人なのか。あなたの考えを書きなさい。

問二 傍線部Bに「一方では、読書を行うために必要な諸能力・諸技能の育成がめざされなければなりません」とありますが、「読書を行うために必要な諸能力・諸技能の育成」のために、どのような指導が必要か。学校種と学年とを設定して、具体的に書きなさい。

問三 傍線部C「読むことによる人間性の陶冶」とはどのようなことか。あなたの読書経験をふまえて書きなさい。

※「日本語教育」分野志望者は、この問題を選択してください。

問題二 次の問いに答えなさい。

問一 次の(ア)～(エ)の四つの語句の中から二つを選び、それぞれ説明しなさい。選択した語句は、記号を解答用紙に記しなさい。

(ア) 学校文法

(イ) 破擦音

(ウ) メトニミー (換喩)

(エ) JSL

問二 次の二つの問いに答えなさい。

① 「この店のパンはどれもおいしそうだ。」と「この店のパンはどれもおいしいようだ。」の意味の違いを説明しなさい。

② 日本語の使役文について、知るところを述べなさい。

問三 日本語に見られる「若者言葉」の特徴と機能について、具体例を挙げつつ説明しなさい。また、教育において、「若者言葉」をどのように扱うべきでしょうか。国語科教育または日本語教育の立場から具体的に論じなさい。

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)  
試験問題 (近代文学) 問題用紙全五枚 (その三)

問題三 近代文学に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の物語の「語り手」について分析しなさい。

著作権の関係により掲載いたしません

問二 次の事項の中から二つを選択し、日本文学史および国文学研究の歴史を踏まえて具体的に説明しなさい。なお、選択した事項の番号を解答欄の上部に記すこと。

- ① 政治小説
- ② 雑誌『三田文学』
- ③ 作者
- ④ 主人公
- ⑤ 大江健三郎とその文学

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)  
試験問題 (古典文学) 問題用紙全五枚 (その五)

問題四 次の文章は『沙石集』の一節である。これを読んで後の問いに答えなさい。

後嵯峨法皇の、御熊野詣ありける時、伊勢国の夫の中に、本宮の音無河と云ふ所に、梅の花の盛りなりけるを見て、よみける。

① 音なしに咲き始めける梅の花匂はざりせばいかで知らまし  
夫が歌には、いみじき秀歌なるべし。

この事、御下向の時、道にて自然に聞食て、北面の下臈に仰せて召されにけり。北面の者、馬にてあちこち打ちめぐりて、「本宮にて、歌よみたりける夫は、いづれぞ」と問ふに、「これこそ、件の夫にて候へ」と、そばにて人申しければ、「仰せなり。参るべし」と云ひける、返事、

② 花ならば折りてぞ人の問ふべきになり下がりたるみこそつらけれ

さて、返事にも及ばで、おめおめと馬より下りて、具して参りぬ。事の子細聞こしめされて、御感ありて、「何事にても所望申せ」と仰せ下さる。…(中略)…「母にて候ふ者を、養ふほどの御恩こそ、所望に候へ」と申しければ、百姓なりけるを、かの所帯の公事、一向御免ありて、永代を限りて、違乱あるまじき由の御下文給はりて、下りけるとぞ。わりなき勸賞にこそ。百姓が子なりけれども、児だちにて、和歌の道心得たりけるとぞ、人申し侍りし。

(新編日本古典文学全集『沙石集』(二〇〇一年、小学館)より一部改変)

〔注〕

○後嵯峨法皇…第八十八代天皇。寛元四年(一二四六)讓位し、院政を行った。

○夫…労役奉仕に徴発された人足。人夫。

○北面…院の御所を守護する武士。

○かの所帯の公事、一向御免ありて、永代を限りて、違乱あるまじきの由…その夫に課せられた租税など一切を免除することを、子々孫々に至るまで保証する旨。

○児だちにて…寺院の稚児として育てられて。

問一 ①と②の二首の和歌について、使われている修辞技巧が明らかになるようにして、それぞれわかりやすく口語訳しなさい。

問二 傍線部について、主語(動作の主体)・目的語(動作の受け手)などを補って口語訳しなさい。また、動作の主体がどのような状態であったのかを読み取り、説明しなさい。

問三 問題文の一節は「歌徳説話」と呼ばれる話型となっている。その話型について、具体的に話の流れを押さえながら、わかりやすく説明しなさい。

問四 『沙石集』は弘安六年(一二八三)に成立した説話集であるが、この作品に至るまでの説話文学の流れについて、知るところを述べなさい。

問五 後嵯峨院の時代(一二四六～七二)は、鎌倉時代における文芸興隆期とされる。この後嵯峨院の時代に成立した和歌集や物語の作品名を挙げつつ、それらについて知るところを述べなさい。